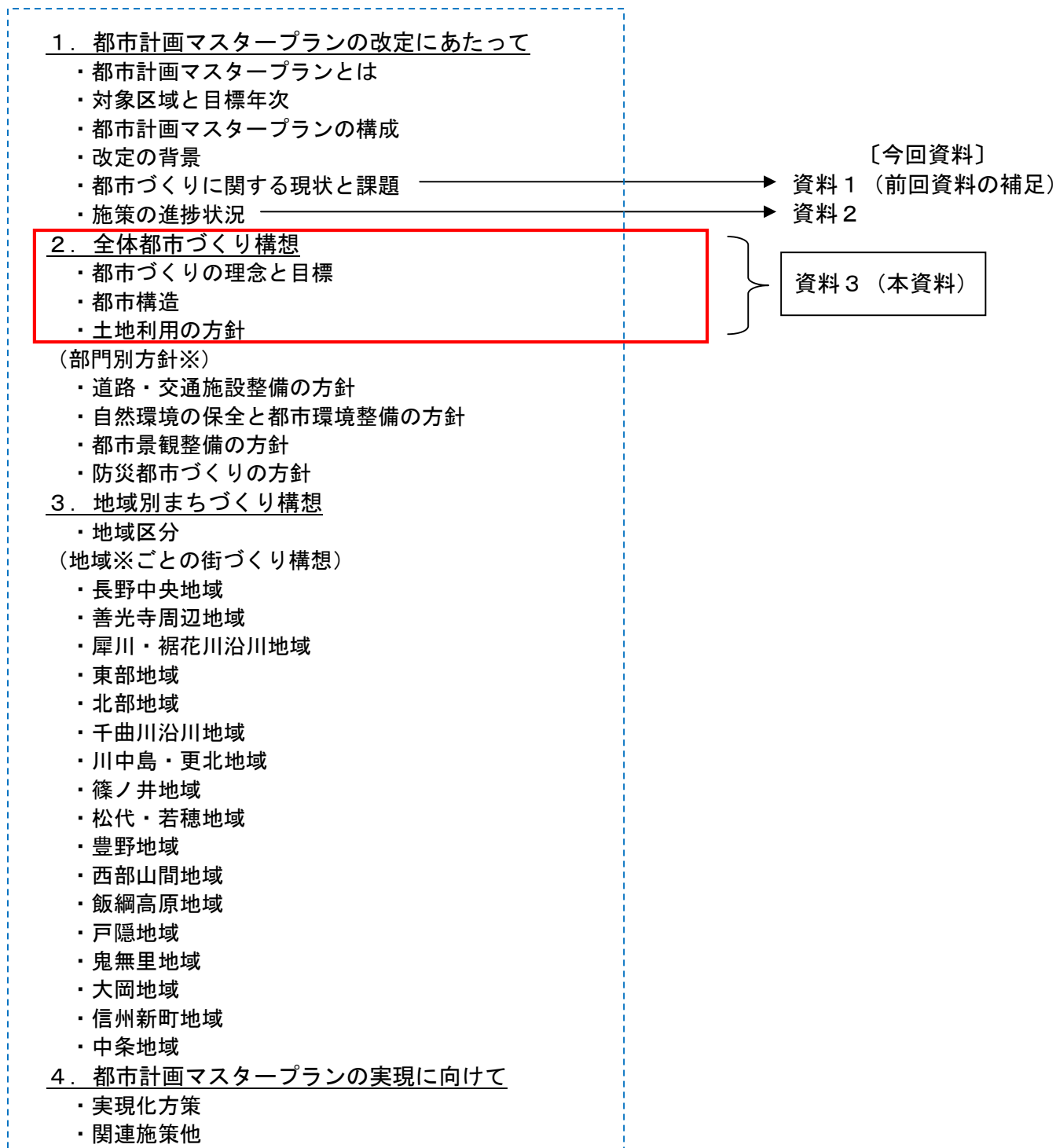


平成27年度 都市計画マスタープラン改定専門部会 第4回資料
 (都市づくりの理念と目標、都市構造・土地利用)

長野市都市計画マスタープランの構成(案)と本資料の該当箇所



※:部門の区分、地域区分は現行マスタープランのもので、改定にあたり変更の可能性がある。

1. 都市づくりの理念・目標

都市づくりの理念は、長野市の都市整備、街づくりを進めていく上での「基本的な姿勢」であり、都市計画マスタープランの基本的な考え方となるものである。長野市の都市形成の歴史、自然、文化などの地域特性を活かし、現況や都市づくりの課題を踏まえ、人口減少・高齢化など市の重要施策の方向性を勘案して設定する。

●都市づくりの理念の検討の視点

長野市の基本構想の視点（パートナーシップ、長野らしさ、健全で効率的な行政運営）を踏まえ、人口減少・高齢社会のもとで諸課題を解決して都市づくりを進めていく。

さらに、都市として持続していくためには、人口減少に挑む長野市長声明で掲げられている、「定住人口の維持、増加」、「交流人口の増加」、「特色ある地域づくり」や、直近で策定された長野市人口ビジョン「少子化対策・子育て支援」、「活力ある地域づくり」、「広域市町村連携」などの視点を理念などの改定内容を考慮する。

また、都市の基本的・根幹的な要素として求められる「安全」、「安心」、「環境」などにも引き続き力点を置いていく必要がある。

これらの視点や方向性を踏まえ、都市づくりに展開していくためには、「長野らしさ」（地域性、歴史・文化、自然、人など）を活かしていくことが不可欠である。

■ 理念・目標を考える上で考慮すべき課題、政策

【都市づくりの課題】	【都市MPの理念・目標に関連する長野市の政策】
<ul style="list-style-type: none">●都市のコンパクト化<ul style="list-style-type: none">・人口減・少子高齢化に向けた対応・公共交通の確保・中心市街地活性化・広域市町村連携の必要性	<ul style="list-style-type: none">●長野市第四次総合計画（基本構想） ～善光寺平に結ばれる～人と地域がきらめくまち“ながの” 〔まちづくりの視点〕<ul style="list-style-type: none">・パートナーシップによるまちづくり・「長野らしさ」をいかしたまちづくり・健全で効率的な行政運営
<ul style="list-style-type: none">●長野らしさを活かした都市づくり<ul style="list-style-type: none">・長野の魅力（歴史、文化、自然）の都市づくりへの取り込み	<ul style="list-style-type: none">●長野市人口ビジョン 〔目指すべき将来の方向を考える5つの視点〕<ul style="list-style-type: none">・しごとの創出と確保・移住・交流の促進・少子化対策・子育て支援・活力ある地域づくり・広域市町村連携
<ul style="list-style-type: none">●自然環境の保全と都市環境整備<ul style="list-style-type: none">・地球温暖化防止に関する都市づくりでの対応・市街地の緑の充実	<ul style="list-style-type: none">●人口減少に挑む長野市長声明－人口減少への反撃－<ul style="list-style-type: none">・健康長寿、少子化対策、企業誘致などを推進し、「定住人口の増加」を図る。・新幹線延伸に伴う賑わいを生む観光などを推進し、「交流人口の増加」を図る。・中山間地域活性化や農林業振興などを推進し、「特色ある地域づくり」を図る。
<ul style="list-style-type: none">●防災都市づくり<ul style="list-style-type: none">・大規模災害への備え・ゲリラ豪雨などへの対策	
<ul style="list-style-type: none">●公・民の連携（協働、パートナーシップ）<ul style="list-style-type: none">・都市の資産（ストック）の活用・まちづくりにおけるパートナーシップ・民間活力の導入、公民連携	

■ 都市づくりの理念

● 歴史・文化・自然などを活かし、「誇り」と「愛着」のもてる暮らしやすい都市

四方を美しい山々に抱かれ、犀川、千曲川や豊かなみどりなど自然に恵まれた長野市は、善光寺平を中心に特色のあるまちや集落が広がり、それぞれが歴史と文化をもち、そこに多様な活動と交流が育まれてきた。

このような特徴をもつ長野市は、中核都市として多くの人々が住み、働き、学び、訪れ、多様な活動が展開される都市であり、そこで活動する一人ひとりが都市の主役である。

人口減少・高齢化が進展するなか、都市の活力や魅力を持続・発展させ、様々なライフスタイルを実現できる一人ひとりが生きがいをもって暮らしていく都市とする。

長野市で、住み、働き、学ぶことの「誇り」があり、「愛着」をもつことにより、「シビックプライド」を育てていく都市づくりを目指す。

● 様々な魅力と活気が感じられる、多くの人を惹きつける都市

物質的な豊かさだけでなく、「生活の質」の向上が強く求められており、生活の基盤となる都市における暮らしやすさや質の高さといった観点が、より重要になっている。長野市が都市としての質を高く保ちつづけるためには、他都市にはない魅力や特色を出していくことが必要である。

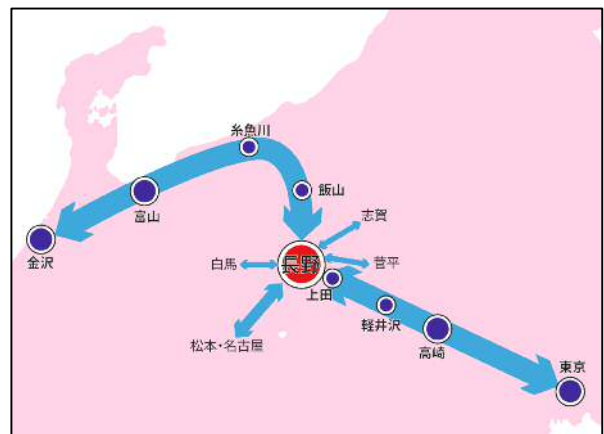
このため、県都としての業務・商業・産業などの都市機能の集積と、善光寺、松代、飯綱、戸隠、鬼無里をはじめとした長野市の特色ある街並み・自然を都市づくりに活かし、長野市のブランドイメージの向上を図っていく。

また、人口が減少するなかで、都市の活力を維持し、都市圏の中核的な位置を占めるためには、観光客、就業者、来訪者などの「交流人口」の増加が重要となる。周辺都市との広域的な連携を強める、アクセス性の高い拠点形成を図ることで、魅力と多くの人を惹きつける都市としていく。

■ 連携中枢都市圏域



■ 長野市の広域的位置付け



● 安心して自由に活動し、元気で過ごせる、皆で共に支えあう都市

「安全」と「安心」は全ての都市づくりの根底にあるものであり、これらが確保されない都市では、魅力も愛着も生まれず、惹きつけられることもない。子どもから高齢者まで全ての世代が、自由で元気に安心して暮らし、働き、活動する都市にするためには、災害、犯罪やその他のリスクに強い都市づくりを進めて、誰もが安心して暮らせるユニバーサルデザインによる都市づくりを基本とする。

また、人口増・都市の活力維持につながる少子化対策・子育て支援や、超高齢社会のもとで、皆が健康で長生きできる都市づくりを積極的に進めていく。

安全で安心して生活、活動でき、子育て・健康長寿を支える都市づくりは、都市基盤や施設による対応のみならず、自然の保全や環境への配慮や、地域における相互扶助や地域コミュニティの充実が欠かせない。長野市内の各地域は、地域特性や生活環境に違いがあり、住民ニーズも様々であるため、地域住民が自ら、それぞれの地域の実態に合わせた街づくりを進めていく必要がある。

このため、各地域や地区毎に、地域のことを熟知している住民や就業・就学者の「自らの住む・働く地域を良くしたい」、「街づくりに参加したい」という意識のもと、市民、企業、諸団体と行政が協働して、街づくりを担い、共に支えあうパートナーシップによる都市形成を進めていく。

■ユニバーサルデザインのまちづくり



■ぐるりん号・おでかけパスポート



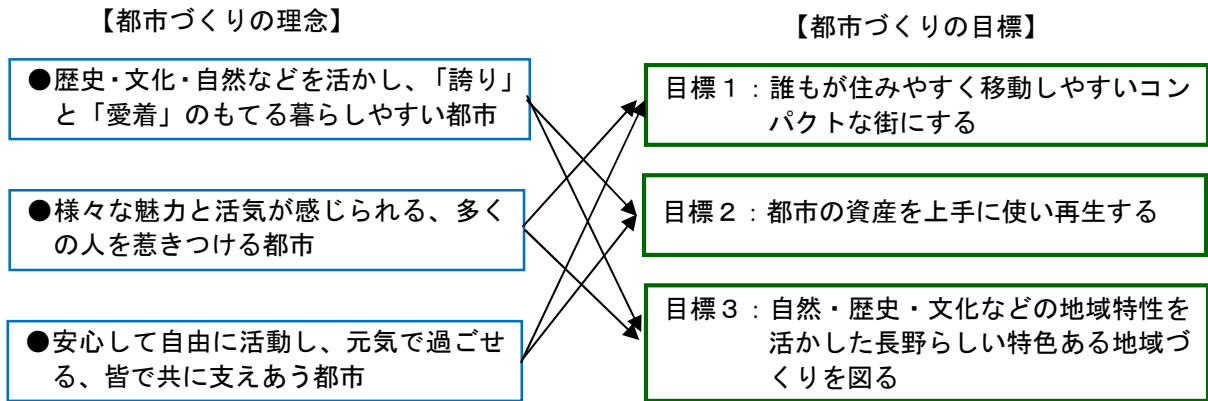
■じゃんけんぼん（こども広場）



出典：長野市資料

■ 都市づくりの目標

都市づくりの理念を実現させていくため、都市の整備や市街地形成の誘導等により目指すべき都市づくりの目標を設定する。目標は、都市づくりの具現化を促進させるため、重点的、戦略的に進めていく観点から設定する。



目標1：誰もが住みやすく移動しやすいコンパクトな街にする

高齢化が進展していく中で、マイカー等の交通手段を持たない市民が、買い物や通院など日常生活に必要な移動に困らないよう、鉄道、バスなどの公共交通や、健康維持や環境配慮にも寄与する徒歩や自転車などの交通手段が使いやすく、自動車に過度に依存しない都市にしていく。

人口増加を背景とした市街地の拡大を前提とするような、これまでの都市づくりから、コンパクトな都市形成へ転換する必要がある。日常生活に必要な商業、医療・福祉、教育・文化などの諸機能がまとまっている鉄道駅周辺と、郊外や中山間地域の既存集落の中心を拠点として、徒歩や公共交通によって行き来することで、マイカー等による移動にたよらない、コンパクトで暮らしやすい生活圏の形成を目指す。

このことにより、それぞれの生活圏において、豊かな生活やきめ細かな医療・福祉・介護などのサービスが提供可能となり、人々のふれあいの拡大やコミュニティも維持・形成され、利便性が高く住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けられる。

マイカー利用から公共交通への転換や都市のコンパクト化は、二酸化炭素を主とする温室効果ガス排出の抑制にも寄与することから、建物の省エネルギー化や再生可能エネルギー利用の促進と合わせて都市の低炭素化を図る。



■ 権堂B-1 地区市街地再開発

出典：2015年長野県の都市計画 資料編

目標 2：都市の資産を上手に使い再生する

人口減少や経済規模の縮小が予見される中で、都市として持続していくためには、スクラップ・アンド・ビルドといった資源浪費型の都市づくりではなく、これまで整備・蓄積されてきた都市の資産（ストック）の活用が重要である。道路や公園等の都市基盤、既存建物などのストックを最大限に活用して、住み・働き・訪れる人たちが安心して自由に活動でき、憩うことのできる都市づくりを目指す。

また、まちなかの施設を活用したリノベーションなどの個々の動きと街づくりを連携させて、まち全体の価値を向上させていく。さらに、公共施設の複合化・多機能化と、交通利便性の高い拠点エリアへの集約を戦略的に進めることで、様々な都市のストックを活用し、まちの再生を図る。

長野市の資産である豊かな自然を適切に守り管理することで災害の発生を防ぐとともに、河川の改修や維持管理、道路等の都市基盤の既存ストックを効果的に活用した整備・維持により安全な都市づくりを行う。

道路等の既存の都市基盤の有効活用を図るため、パーク・アンド・ライドなどの自動車から公共交通への乗り換え促進といった交通需要マネジメントの実施や、まち全体の価値を向上させるエリア・マネジメントといった「ソフト」の取組みを進める。



■ 中央通りの歩行者優先化整備



■ リノベーション事例

出典：長野市資料

目標3：自然・歴史・文化などの地域特性を活かした長野らしい特色ある地域づくりを図る

長野市が魅力と活力のある都市としてあり続けるためには、住民・就業・就学者だけではなく、観光・ビジネスなどの来訪者などの交流人口を増やすことが重要である。

このため、多くの人を惹きつける文化の創造につながる街づくりや、地域ごとの特性や市街地形成の歴史を踏まえ、それぞれが特色をもち独自の文化を創造する街づくりを行う。多様な生活・就業形態に対応し、長野市の魅力である自然・歴史・文化を活かした居住や就業、広域交通網を活用した広域交流を視野に入れた都市づくりを進める。

長野市の特徴である善光寺平を取り囲む山、川、みどりなどの自然資産を守り育てていくとともに、都市づくりの重要な要素として都市と一体的な活用を図る。また、都市内での緑の充実や地域特性を活かした景観づくりを進めることにより、特色ある地域づくりを進める。

「生活の質」を高めるために、地域住民が自らそれぞれの地域の特色ある街づくり（地域の伝統文化・行事の継承、コミュニティ・カフェのような地域社会の中の居場所づくりなど）に取り組み、それを支える組織や人を資産として尊重する。また、市民と住民自治協議会といった地域、行政が協働して街づくりを進めていくための計画づくりや街づくり活動を行う場づくりを進める。



■ 飯綱高原の住宅と自然



■ 松代藩真田十万石まつり



■ 信州松代れきみち（歴史の道）



出典：（上段左）長野県の都市計画（2014）（上段右）長野市観光パンフレット（ながの観光Net）
（下段）長野市資料

2. 都市構造

都市構造とは、都市づくりの理念や目標を達成するため、現在の土地利用や自然などの地域資源を踏まえつつ、将来の望ましい都市の構成（土地利用と地域間連携の大きな方向性）を示したものであり、都市の「骨格」を空間的、概念的に示すものである。

ここでは、都市づくりの目標を達成するために次の基本方針を位置づけ、都市整備を進める。

これら2つの基本方針に基づいた都市拠点と都市軸、地域交流軸の形成の方針を次項以降に示す。

■ 都市構造の基本的な考え方

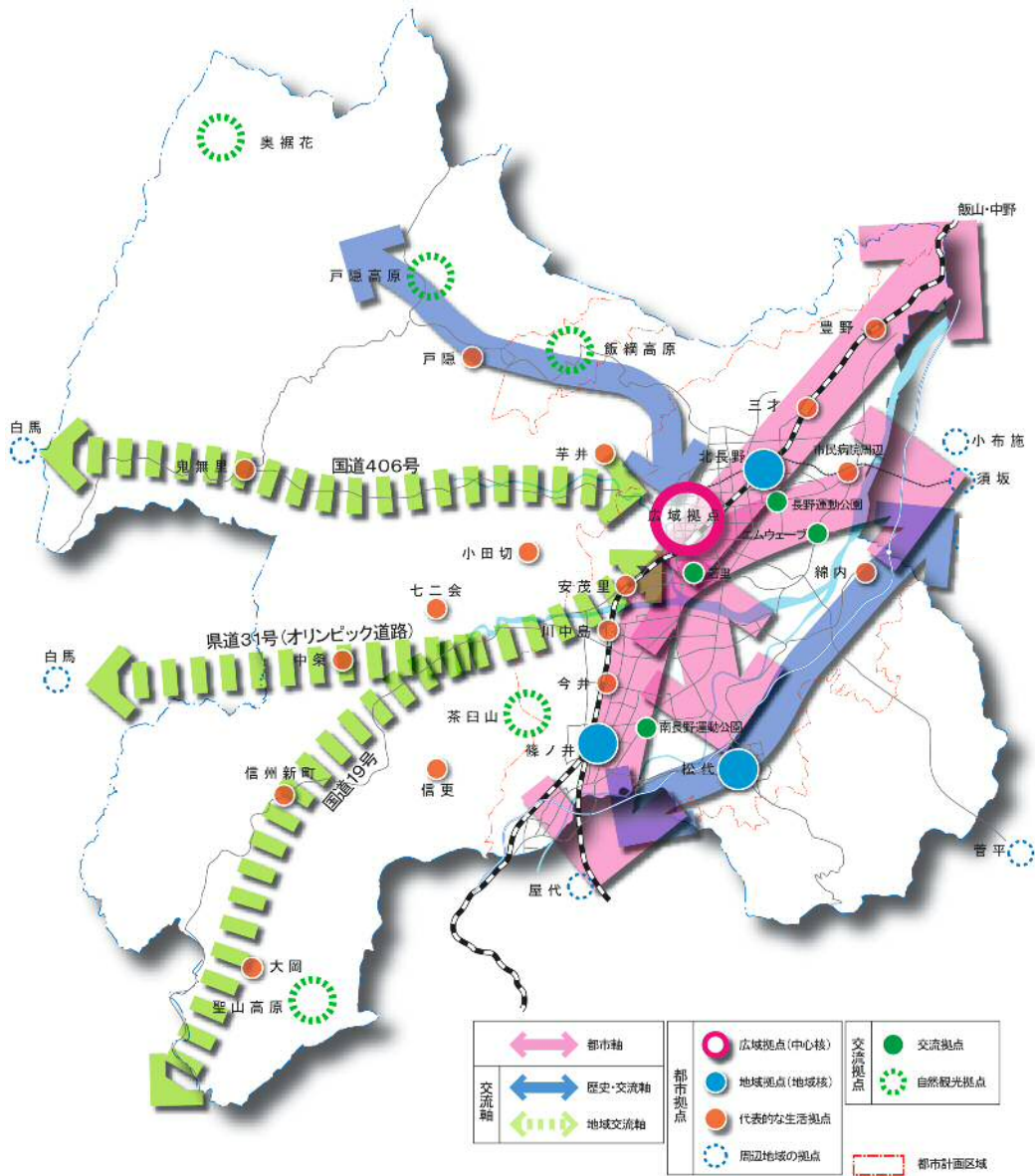
● コンパクトな都市（集約型都市構造）とするための「都市拠点」と「都市軸」の形成

- ・ 多様な都市機能が集積し都市生活・活動の核となる「都市拠点」の形成
- ・ 「都市拠点」をつなぎ、拠点間の都市機能の集積と連携を確保する「都市軸」の形成

● 地域資源を活かし各地域が連携した一体的な都市の形成

- ・ 交流・観光・レクリエーションの広域的な拠点となる「交流拠点」と、豊かな自然の保全とともに、観光業の振興を図る「自然観光拠点」の形成
- ・ 「自然観光拠点」や「地域拠点」などを結び、市外との連携を強める「地域交流軸」の形成
- ・ 市内に点在する歴史的な街などを結び、歴史・文化の交流や周遊性を高める「歴史・交流軸」の形成

■ 都市構造の形成方針



■ 都市拠点と都市軸

①都市拠点(広域拠点、地域拠点、生活拠点)の形成

都市拠点は、都市を形づくっていく骨組みとして、自動車を自由に運転できない人の移動の確保や、都市活動や日常生活を支える都市機能集積の観点から、都市機能の集積があり交通結節点等の機能をもつ中心市街地や鉄道駅周辺、既存集落の中心部等を位置づける。拠点では、地域特性に応じて業務、商業、医療、介護、教育、文化などの都市機能の集積や基盤整備等を進める。

広域拠点(長野地区中心市街地)

- ・長野地区中心市街地を核とした高次の広域的都市機能の集積・維持

地域拠点(篠ノ井、松代、北長野)

- ・広域拠点に次ぐ機能を分担し、地域の自然・歴史・文化を活かした生活と交流のための都市機能の集積・維持

生活拠点(生活と密着した地域コミュニティの拠点)

- ・上記の拠点以外の主要な鉄道駅周辺など、市街地における地域の「生活の質」を高め、生活と密着したサービスを提供する都市機能の集積・維持
- ・歴史的に形成されてきた既存市街地や中山間地域の集落の中心地区

②都市軸の形成

都市軸は、歩いて暮らせる生活圏の形成や公共交通の活用、移動による環境負荷の低減の観点から、鉄道沿線や拠点間の相互連携を促進する位置に設定する。

都市軸

- ・公共交通を基本とし、さまざまな拠点、地域を結びつけ、活発な都市活動や交流を支える軸

③交流・観光拠点の形成

自然観光拠点は、豊かな自然を持つ地域の保全を図るとともに、観光等の産業振興や二地域居住や農林業体験などの交流人口の受け入れを促進するための地域の核として、設定する。

交流拠点(エムウェーブ、南長野運動公園、若里など)

- ・市内、市外を問わず、より多くの人が集まるように交流人口を視野にいたれた交流・観光・レクリエーションの広域的な拠点

自然観光拠点

- ・居住人口と交流人口の拡大を視野に入れ、自然環境と共生した居住・観光地としての整備を図る拠点

④交流軸

交流軸は、都市機能、地域間の連携や観光ネットワークの形成を高めるため、交流拠点、自然観光拠点や地域拠点を結ぶ道路を基本として位置づける。

歴史・交流軸

- ・周辺地域の拠点や市内に点在する歴史的な街を結び、歴史・文化の交流、観光の周遊性を高める軸

地域交流軸

- ・道路を基本として、長野市内の地域拠点や自然観光拠点を結び、都市機能の連携や広域的な観光ネットワークの形成を高める軸

■ 都市拠点の整備方針

都市づくりの目標である「誰もが住みやすく移動しやすいコンパクトな街」の形成の核となるそれぞれの都市拠点(広域拠点、地域拠点、生活拠点)の具体的な整備の方向性は次の通りとする。

● 広域拠点

- ・広域拠点は、長野駅～善光寺を中心とした中心市街地を長野市及び北信地域の「広域総合拠点」として、ここでしか手に入らないような商品やサービスが提供される商業・娯楽機能、市役所・県庁や国の機関などの行政機能、金融機関や企業の本支店などの事務所機能等の多様で高次の都市機能が集積する拠点である。
- ・長野地区中心市街地の整備を促進し、中央通りや周辺地域での歩行者優先の交通環境や市街地整備を進め、商業集積等を促進させる。
- ・同時に、官公庁や本社機能などの中枢的な業務・サービス機能といった高次都市機能の集積を図る。歩いて暮らせる生活圏の形成と、活力と魅力を備えた中心市街地の形成のため、まちなか居住の促進策や周辺地域との公共交通の結節性を高める。

● 地域拠点(篠ノ井、松代、北長野)

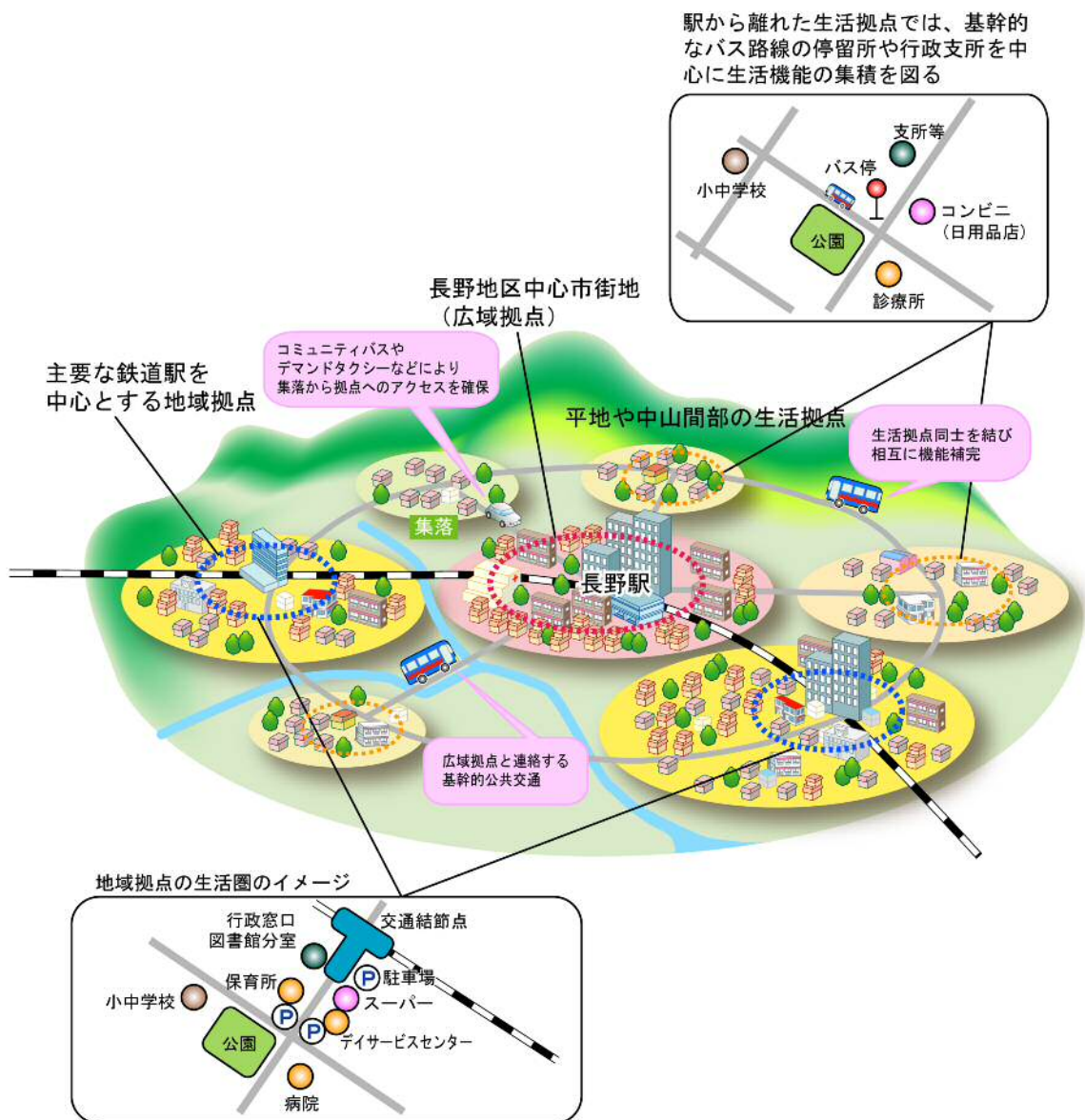
- ・歴史的に地域の中心として諸機能が集積してきた、篠ノ井、松代や、交通結節点でもあり駅前の再開発事業により商業等の集積が高い北長野周辺は、「地域拠点」として、広域拠点に次ぐ都市機能を分担し、日常生活の中心となる拠点である。
- ・地域拠点では、すでに整備されている駅前広場等の都市基盤を活かし、周辺地域の生活や業務関連施設の立地促進を図る。
- ・周辺に広がる住宅地から拠点駅前へのバスや車でのアクセスを強化するとともに、パーク・アンド・ライドによる公共交通への乗り換えの拠点とする。

● 生活拠点(既存市街地や中山間地域の中心地)

- ・鉄道駅周辺、主要なバス停周辺、支所等が立地する既存集落の中心地では、スーパーマーケット、食料品・日用品店などの商店や、小中学校や診療所等の日常生活に不可欠な機能が徒歩またはバス等の公共交通で利用できるよう、土地利用や都市機能の誘導を図る。
- ・拠点周辺や拠点までの道路整備を図るとともに、バス等の公共交通アクセスの強化を進める。
- ・生活拠点を中心として、居住機能の集約立地を進め、拠点での都市機能の需要確保と、居住地から拠点への負担の少ない移動(徒歩、自転車等)が確保されるよう居住誘導を図る。

(中山間地域の生活拠点)

- ・中山間地域の生活拠点では、既存の集落コミュニティを基本として、必要に応じて「自助・共助・公助」を組み合わせた生活の展開を図る「小さな拠点」とする。
- ・拠点で全ての都市機能を集積することができない場合は、隣接する生活拠点との連携による役割分担を図り、拠点間の交通を確保する。
- ・マイカーが利用できない高齢者等の通院等、市民の移動手段を確保するため、デマンドタクシーと、他の都市拠点等での基幹的なバス・鉄道を組み合わせた生活交通を確保する。
- ・多様な二地域居住の受け皿としての住宅や、営農希望者やリタイア（退職者）層などのU・I・Jターン者を受け入れるため、空家や空地の活用を進める。



■ 都市拠点の形成による集約型都市構造のイメージ図

3. 土地利用の方針

■ 土地利用の基本方針

●コンパクトな街の形成のための土地利用の誘導

①集約型都市構造に対応する土地利用

徒歩圏内に日常生活に必要な機能（生活利便施設、医療、介護、教育、文化など）を集積させ、コンパクトな都市圏を実現するため、身近な拠点(既存の交通ネットワーク等による利便性の高い場所など)の育成や、居住機能と商業、業務等の機能が複合した土地利用を図る。

②中心市街地の活性化

中心市街地では、歴史・文化などの特色を尊重し、既存の都市基盤を有効に活用するとともに、賑わいを創出する商業、文化等の都市機能を集積させる。また、まちなか居住を推進することで、多様な魅力と活力のある「都市の顔」にふさわしい中心市街地の再生を図る。

③多様な居住ニーズに対応する土地利用

持続可能な都市としていくため、ある程度の人口規模を維持することも重要であり、少子化傾向を食い止める方策とともに、転出者を減らし、二地域居住やU・I・Jターンなどを可能とする土地利用を図る。

市街地や集落地域において、市街地特性と市民のライフスタイル（若年単身者、ファミリー世帯、熟年世帯、高齢世帯等）に応じた居住地を提供する。

中心市街地周辺部や市街地縁辺部では、鉄道駅や基幹的なバス網が整備されているエリアを中心に、生活道路や公園、生活利便施設等の集積を促進し、「歩いて暮らせる」住宅地形成を図る。

④市街地の外延的な拡大の抑制

コンパクトな都市を形成するとともに、無秩序な市街地の拡大を防止し、郊外や中山間地域の良好な自然や農林業地を保全するため、居住機能の集約誘導により、市街地の外延的な拡大を抑制する。

●地域特性を活かした土地利用の誘導

①地域区分に応じた課題を踏まえた土地利用

長野市の市街地は、その成り立ちやこれまでの都市計画により、いくつかの市街地に類型できる。行政や業務機能、広域的な商業機能が集積してきた長野中心市街地をはじめ、旧市町村の中心地域や鉄道駅周辺など、地域の中心的な商業地が存在する。

居住地も中心市街地、中心市街地の周辺に拡大してきた住宅地、農地の転換により形成された住宅地、高度成長期に形成された住宅地、平地部の農地の中の集落、中山間地域の集落など多様である。このため、中心市街地、周辺中心市街地、市街地縁辺部、平地部の集落地、中山間地域の集落地、高原住宅などの区分を設定し、集約型の都市構造

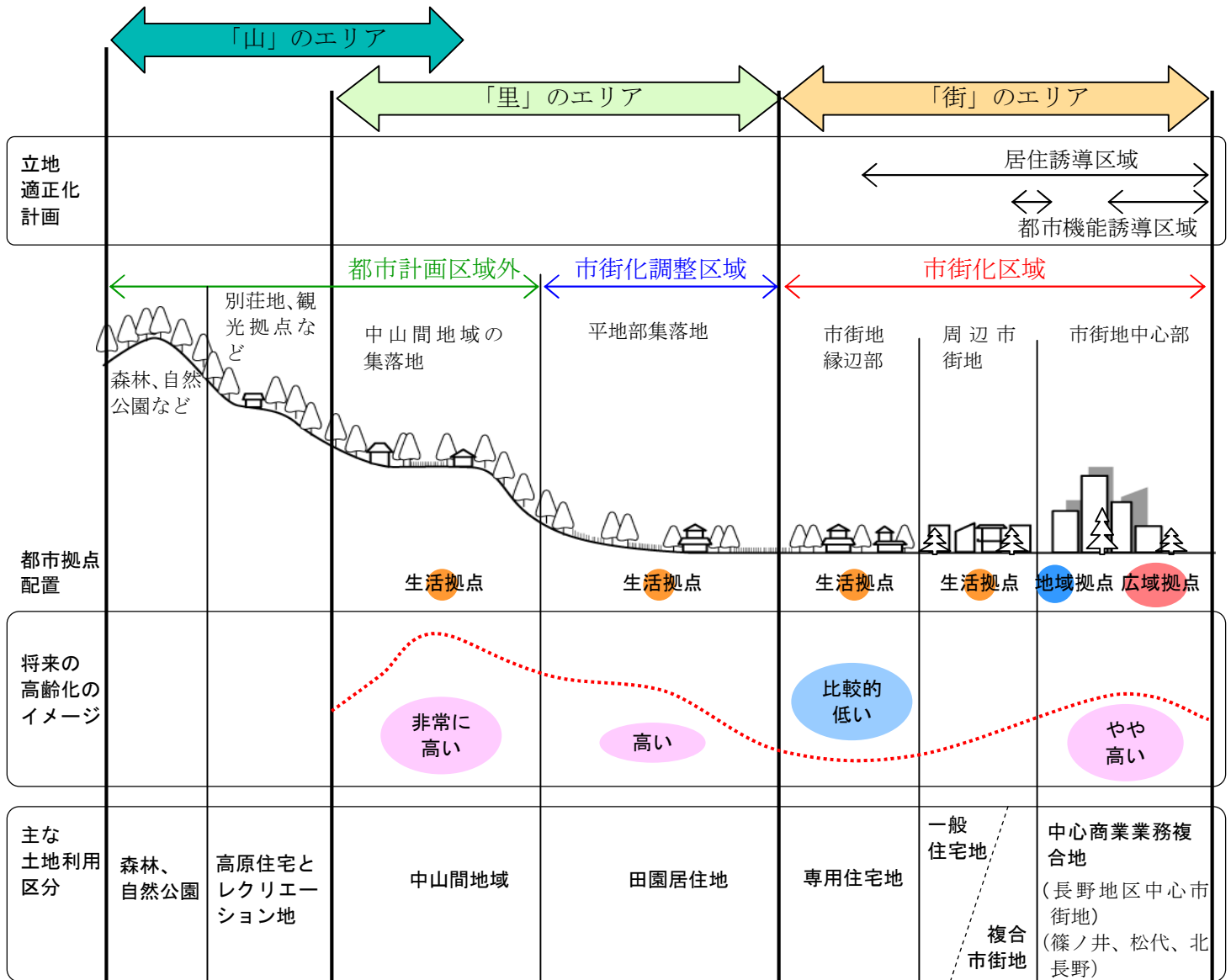
を実現するための機能集積や土地利用の誘導を進めていく。

②自然環境保全や農林業振興と都市生活の共存を図る土地利用

本市の資産である豊かな自然環境と、都市の魅力や活力を生み出す都市活動との共生に積極的に取り組むとともに、貴重な生産活動の場である農林地と居住の調和を図り、各地域の自然・風土を活かした都市づくりを目指す。

地域区分と土地利用区分表

地域区分	土地利用区分	該当地域
市街地中心部	①中心商業・業務複合地	・広域的な都市核〔長野地区中心市街地〕 ・地域商業などの拠点〔篠ノ井、松代、北長野〕
周辺市街地	②複合市街地	・市街地中心部に接する地域で住宅と商業、工業等が複合しているエリア（鶴賀、中御所等）や駅周辺の市街地（豊野、川中島等） ・幹線道路沿道等
	③一般住宅地	市街地周辺の住宅主体の地域（三輪、吉田、古牧、芹田、川中島・篠ノ井などの一部等）
市街地縁辺部	④専用住宅地	戸建ての住宅が主体で良好な住環境が確保されている地域（安茂里、浅川、若槻、朝陽、篠ノ井・川中島の周辺部等）
	⑤工業地	工場や流通施設などの産業施設の集積地（石渡・北尾張部地区、南長池・北長池地区、篠ノ井岡田地区、大豆島地区）
平地部の集落地	⑥田園居住地	市街化調整区域内の農業的土地利用と居住が複合している地域
中山間地域の集落地	⑦中山間地域	山間部や丘陵部にあり、豊かな自然と農林業の生産空間と集落が点在している地域。（都市計画区域外）
高原住宅、観光拠点など	⑧高原住宅・レクリエーション地	飯綱高原の良好な自然に囲まれた高原型居住地 自然環境と共存した自然・レクリエーション地域
森林、自然公園など	⑨森林・自然公園	上信越高原国立公園区域をはじめとする山岳、森林、湖沼等（良好な景観の保全、水資源の供給、災害防止等の面で重要な地域）



その他の土地利用区分：「工業地」

土地利用区分のイメージ図

■ 土地利用区分ごとの方針

(1) 市街地中心部（中心商業・業務複合地）

都市活動や生活の中心となる広域拠点や地域拠点では、多様で魅力ある都市機能の集積を図るとともに、多様な居住機能の導入を図るため、中心市街地をはじめとする主要な駅周辺の市街地では、商業・業務機能と合わせて、良質な都市型住宅の土地利用を誘導する。

(2) 周辺市街地（複合市街地、一般住宅地）

中心市街地などに近接している地域特性や、鉄道などの公共交通の利便性を活かし、既存の都市のストック（基盤や住宅など）を活用して、戸建や集合住宅など多様な住宅の供給と職住近接や歩いて暮らせる街づくりを進める。

比較的古くから形成されてきた住宅地のため、道路や身近な公園などの都市基盤の整備や更新を進め、快適で安全な住環境を提供する。

(3) 市街地縁辺部（専用住宅地、工業地）

郊外の既存市街地では、緑が多く、より広い居住地を提供し、新たな住民の受け皿として魅力ある整備を重点的に行うとともに、次世代にわたって住み続けられる都市づくりを進める。

基盤の整備されている住宅地においては、地区計画*等による地域づくりのルール化を促進し、個々の建替え等の機会をとらえた市街地内の基盤整備、環境整備を図る。

生産活動の中心となる工業地では、工業・物流等の産業関連機能の集積を促し、周辺地域の環境の悪化を招かないような土地利用とするとともに、地域内では敷地内外の緑化による環境の向上を図る。

(4) 平地部の集落（田園居住地）

平地部の集落（市街化調整区域）は、自然環境・農地等の保全を図り無秩序に分散した居住を防ぐため、既存集落の環境整備を進め、秩序ある土地利用を誘導する。

また、農地・農業用水等は食料の安定供給、農業の多面的機能を支える重要な資源であるとともに、自然環境や景観の保全・形成の面からも重要であり、将来にわたる良好な資源として保全・管理していく。

(5) 中山間地域の集落（中山間地域）

中山間地域では、営農希望者など、U・I・Jターン者の受け入れ環境の整備（住宅・遊

休農地活用等)を進める。

農地・山林は農林業の持続的発展に重要であるとともに、自然環境や景観の保全・形成の面からも重要であることから、二地域居住等との調和を図りつつ将来にわたる良好な資源として保全・管理していく。

観光、農林業体験、クラインガルテンなど、都市部からの交流人口を増加させるソフト施策と必要なインフラ整備を進める。

農地・山林の荒廃により災害の発生が予想されるため、避難や応急活動が円滑にできるための道路等のインフラ整備や災害発生時の応急体制（情報伝達、避難誘導等）のソフト的な対策がとれる環境を整備する。

(6) 高原住宅・観光拠点

飯綱高原等の良好な自然に囲まれた環境を活かし、都市住民の二地域居住などの受け皿として健全な居住地としていく。一方で無秩序な開発による環境の悪化も懸念されることから、居住地や生活利便施設等の秩序ある立地を誘導し、自然環境と調和した高原の居住地の形成を図る。

また、観光拠点でもあることから、多くの人々が自然を享受できる施設整備や土地利用を推進する。

(7) 森林、自然公園等

上信越高原国立公園区域をはじめとする山岳、森林、湖沼等の美しく豊かな自然環境は、良好な景観の保全、水資源の供給、洪水や地すべりといった災害防止等の面で重要な地域であり、将来に引き継ぐべき貴重な財産として積極的に保全をしていく。